



現状と課題

R6 4年生:「県学調」平均レベル国語5-B 算数4-A  
 R6 5年生:「県学調」平均レベル国語5-B 算数5-A  
 R5 4年生:「県学調」平均レベル国語5-B 算数4-A  
 (\*国語レベル上昇なし。算数3段階アップ)  
 ⇒課題  
 ・思考力・判断力・表現力が国語・算数ともに最も課題。  
 ・日本語の理解が不十分な児童において問題の意味理解が難しい。  
 ・考える基になる知識・技能の定着が不十分。

現状と課題をもとにした仮説

・基礎的な漢字・計算・意味理解を徹底し、「わかった」「できた」を積み重ねていけば、主体的に学ぶ児童が育成されるであろう。  
 ・習熟度別学習を実施することによって、低・中・上位層の児童にそれぞれあった課題を与え、学び続けることによって、達成感を味わわせ意欲を高めることができるであろう。  
 ・加配教員の役割を明確化・細分化することによって、各学年の副担任はじめ、教員一人一人の意識改善を図ることができるであろう。

事業実施報告

8月 サマースクール  
 9月24日 要請訪問・協議  
 通年 学習支援員  
 習熟度別学習  
 日本語指導

仮説をもとにした取組内容

取組① 指導体制や補充的な学習の充実

算数科の単元のまとめの学習において、基礎的・基本的な内容の確実な定着を図る指導、一人一人の児童の資質や能力に応じた指導を行うことを目的とし、習熟度別学習を実施した。また、T1を加配教員、T2を児童のつまずきが分かっている担任とすることで、授業内容と個別指導の充実を図った。



取組② 朝学習の工夫

国語科の詩の暗唱に取り組んだ。加配教員や友達に聞いてもらうことにより「できた」「わかった」が積み重ねられるようにした。  
 算数タイムでは、思考力・判断力・表現力の向上を目的としてコバトン問題集に取り組んだ。問題を解く際に、友達同士で協力して取り組んでいた。また、加配教員がつまずきを把握し、個別支援に繋がった。



取組③ 個に応じた指導の充実

埼玉県の学力・学習状況調査を基にした「コバトンのびのびシート」を各クラス2・3名作成し、どの児童がどの部分でつまずいているのかを認識するように努めた。  
 研究授業では抽出した児童を教員が観察するために記録係の教員を一人配置した。そうすることで、子供の思考の流れを記録し、研究協議ではどの部分でつまずいていたのかを共有した。  
 日本語教室の担当教諭と連携し、授業内容に関わる日本語の習得に努めた。



取組④ 学習ツールの工夫と充実

ICTを効果的に活用した。タブレットの機能を使って匿名で意見を交換することで、心理的安全性を確保したり、レベルに応じて配信されたヒントカードをもとに解決したり、それぞれに合った方法で学習ができるようにした。  
 学力テストのCBT化に向けてA市町村で作成している算数の問題を活用し、タブレットを使っての解答に慣れさせることで、算数の基礎的な学力向上に努めた。



## 現時点での成果

## 成果① 学習方法を選択できる児童への変容

習熟度別学習と個別指導の強化により、児童一人一人が自分に合ったクラスを選んだり、ヒントを選んだりするようになった。そのことにより、学習意欲が向上した。それぞれのペースで成長し、自信をもって新しい学習に取り組む環境が構築された。

## 成果② 積極的で助け合う学習集団への変容

詩の暗唱を聞き合う事を通じて、「ナイス」「おいしい」など友達と学習を楽しむような姿が見られた。

算数では、応用問題に粘り強く取り組む姿が見られ、考え続ける力が向上した。児童の問題解決に向けて積極的に協力する姿が多く見られた。

## 成果③ 個別指導に生かす体制の強化

コバトンのびのびシートに基づいて学習につまずく児童を早期に発見し、個別の支援を行う体制を強化した。授業中の学習状況を正確に把握し、各児童の理解度に応じた指導を実施した。日本語の理解が不十分な児童に対しては、日本語教室の担当教諭と連携し、言語の壁を乗り越えて理解を深められるようにした。その結果、すべての児童がそれぞれのペースで学力を底上げする体制が整った。

## 成果④ ICTを積極的に活用する児童への変容

ICTを効果的に活用することで、これまで全体の前で発表することができなかった児童もタブレットに自分の考えを入力して意見を交流させることができた。課題解決に向けて自分に合ったヒントを得ることもできるようになった。また、ICTを積極的に使って学習を進めていこうとする児童の姿が見られた。

## 課題及び次年度に向けて

日本語の理解が不十分な児童が多数在籍するため、国語・算数ともに問題の意味を理解することに難しさを感じている様子が多く見られる。文字は読めないが、音声を聞けばわかる児童も多数いるため、友達が読む、ICTを活用して文章を読んでもらうなど工夫していきたい。

ICTを使って出題された問題を解く際に、紙の時よりもよく考えずに選択肢を選ぶ傾向が見られた。解答時間を分析する等の手段により、紙のテストと同様の力を発揮できるようにしていきたい。習熟度別学習の選択のさせ方・意欲付け・目的を明確にしながらいよいよ指導を模索していきたい。

